

科目「生物活用」

単位数	4単位
学年	3学年
教科書	生物活用

1. 授業のねらい

この科目では、園芸作物を中心とした草花などの植物を活用して、地域と地域農業の実態、学科の目標や特色、生徒の必要性に適したものである。

このように、身近な暮らしの場における植物の栽培等とおして、それらとの関わりを見つめ直すことが大切であり、また、そこでの感動や発見をこれからの生活の良い糧とする。そして、それを基に交流活動とおして各種学校や地域の人々が共有できるようにする。

2. 授業の内容と進め方

生物活用の学習においては、園芸作物の体験的、継続的な栽培、管理、活用に関する実習などを通して、園芸作物のもつ特性、園芸活動や園芸デザインの活動が及ぼす健康上の効果及び園芸セラピーの特性を理解させ、園芸作物の活用に関する基本的、体系的な知識と技術を習得させる。

科目「生物活用」の内容は、(1)生物活用の意義と役割、(2)園芸作物の栽培と活用、(3)社会動物の飼育と活用、(4)健康の改善と生活の質の向上、この4つに重点を置いています。それは、私達が今後の生産技術者としての様々な課題にどう対応していくか考える場にしていく。

3. 学習する上での留意点

生物活用の学習では、「心の豊かさ」を重視して園芸活動などとの触れ合いを通してゆとりややすらぎを得る体験の場として園芸作物などの活用について学習させる。そして、実際の・体験的な学習を重視して、実践力を体得させることとして、実習を通して園芸活動などの交流において園芸作物などを有効に活用する実践力を育てることとする。

4. 課題・補講について

長期休業中に、指定した文献の中から本を読みレポート提出を行う予定です。また、その期間外での自主的なレポート、自主的な栽培管理に関するレポート提出も大歓迎です。

成績が不十分の場合は、補充、課題を実施します。

5. 評価の観点・方法について

評価は考査、課題及びレポート提出、授業態度・出席状況を組み合わせて行います。考査は1、2、3学期の中間・期末の年6回。各100点満点で実施します。配点は、考査6回の平均点の60%、課題及びレポート提出30%、授業態度・出席状況10%で行います。

評価の観点	内 容	評 価 方 法
関心・意欲・態度	①草花の新たな利用に関心を持ち、生物活用の知識や技術を取り入れようとする意欲を持ち、授業中の課題や作業に積極的に取り組む態度を身につけているか。 ②授業に主体的に参加し、意欲的に取り組んでいるか。 ③グループの生徒と協調性をもって実習に望んでいるか。	学習用具の準備 授業への取り組みや態度 学習記録用紙への記入
思考・判断・表現	①記録用紙の自己評価に客観的な判断がなされているか。 ②授業の記録がきちんと整理され、結果に対する考察が十分であるか。	学習記録用紙の自己評価内容 レポート
技能	①植物の活用・フラワーアレンジメントなどのデザインまたは創作する技能を身につけているか。 ②園芸作業の基本技術が身に付いている。	材料の取り扱い方 材料や作品の出来具合
知識・理解	①生物活用についての基礎的な知識や技術を身につけているか。 ②園芸植物に対して、その特徴や栽培技術、生物活用分野での利用法の知識を身につけ、私たちの生活の場との関わりを理解している。	中間考査 期末考査